

三田図書館・情報学会合同運営委員会議事抄録

日時:2026年7月1日(水)18:00～20:20

場所:Zoomによるオンライン開催

出席者	運営委員:	安形麻理, 池谷のぞみ, 荻原幸子, 岸田和明, 谷口祥一, 永崎研宣, 根本彰, 福島幸宏, 松本直樹, 宮田洋輔, 和気尚美(五十音順)
	監事:	杉江典子
欠席者		市古みどり, 汐崎順子

(敬称略)

【2025年度事業報告】

1. 編集委員会報告

安形(編集委員会委員長)が, 資料1, 2に基づき, 会誌(No. 93, No. 94)の刊行, 学会賞の選考, 編集委員会の開催, 編集状況(2025年度を含む過去5年間), 学会誌発行にかかわる費用について報告した。

[質疑応答]

- 質問なし

2. プログラム委員会報告

宮田(プログラム委員)が, 資料3, 4, 5に基づき, 2025年度月例会(第195回～第197回), 研究大会, ベスト・プレゼンテーション賞授与, スライド公開, プログラム委員会の開催について, 報告した。

[質疑応答]

- 質問なし

3. 研究助成

宮田(事務局)が, 資料6に基づき, 研究助成に関して報告した。2025年度は3件の申請があり, 松谷有美子氏「朝河貫一が主導した洋書の寄贈: 慶應義塾図書館および早稲田大学図書館を中心に」が採択された。規定に関わる過年度の研究助成の投稿状況についても報告した。

[質疑応答]

- 質問なし

4. 2025年度決算報告

松本(事務局)が, 資料7-1に基づき決算に関して報告した。また資料7-2により公認会計士による会計監査の結果を受け, 会計処理が適性であるとのコメントを報告した。

杉江監事が監事を代表し, 2025年度の事業活動について学会の目的に沿った適切な活動がなされていることを確認した旨, 報告した。月例会と研究大会についても幅広いテーマで活動を行い, 多くの参加者があった。ハイブリッド形式など運営側の負担はあると思われるが今後も継続してほしい。一方, 学会誌への論文掲載が少ないことから, 掲載種別や査読体制などに検討の余地がある。図書館情報学分野で研究活動を行う人達が, 論文発表の場にしたいと思ってもらえることで, 個人会員が増加する可能性もある。この数年間の収支において不確定な部分があり, 将来を見据えた体制構築が重要となる。

[質疑応答]

- 谷口: 公認会計士から口頭でコメントやアドバイスはなかったか。
- 松本: コメントはあった。1点目は, 切手等の現物を監査時に準備すること, 2点目

は収益事業と捉えられないように月例会や大会の参加費を会費収入に含めること、であった。繰越金が多いことについては、即時オープンアクセスの状況を踏まえたものである旨、説明を行ったところ、特にコメントはなかった。

- 谷口: 繰越金の金額については厳しく見る会計士もいるのではないかと、という観点から質問した。
- 根本: 会費収入に参加費を含めるとはどういうことか。
- 松本: ゲスト会費という項目を立てて対応したい。
- 根本: もう一点、機関会員の変化はどうか。
- 松本: 昨年度は39機関が退会した。今年度は機関会員数が限りなく0に近づくと想定している。

【2026年度事業計画】

1. 編集委員会

安形(編集委員会委員長)が、資料8, 9に基づき説明した。

- No. 95についてはJ-Stage移行の影響に加え、掲載が決まった論文が現時点でないため遅れているが秋口には刊行予定。No.96は12月に刊行を予定している。
- 2025年度の学会賞の選考は、No.94, No.95(刊行予定)掲載の原著論文を対象としている。一方、大会までにNo.95の刊行が間になわない場合は、次年度に選考を延期する。
- 大会への査読セッションの設置とJ-Stage移行などに伴い、投稿規程、論文執筆要綱および「出版に関する取り決め」を改訂する。

[質疑応答]

- 根本: No. 95の刊行が間に合わない場合の取扱を確認したい。
- 安形: No.94に掲載されているのは原著論文1本しかないため、2026年度の選考をおこなわず、2027年度にNo.94以降掲載論文を対象に選考を行う方針である。これまでも刊行の遅れによって、時期をずらして学会賞を選考した事例もある。
- 根本: 年度単位でやっているものをあわせるのはどうか。2026年度刊行予定の2号に対して選考する手もあるのでは。
- 安形: No.95の刊行時期によっては、No.96との合併号とする可能性もある。年度ごとの選考を改めて検討したい。No.95の刊行時期によって方針を検討したい。投稿数自体は回復しているが、なかなか掲載にいたらない状況がある。
- 池谷: 受賞機会の確保という観点も重要と考える。
- 谷口: 論文の即時オープンアクセス化のアナウンスについて。
- 安形: 機関会員については2025年秋に文書で告知した。個人・機関会員には、2025年12月のNo.94刊行時に編集後記としてお知らせした。今年の4月からは学会Webサイトでも告知している。なお、J-Stage移行とともに再度の通知と2026年度の年会費徴収を行う計画であった。サイト構築が遅れているため時期が遅くなっているが、まもなく通知したい。

2. プログラム委員会

永崎(プログラム委員会委員長)が、資料10に基づき説明した。

- 研究大会は11月14日(土)三田キャンパス第1校舎121教室にて対面で開催する。オンライン配信も基本的な範囲で実施する。ベストプレゼンテーション賞の選出・授与は昨年度通りに行う。
- 月例会は、第198回～200回の3回とし、対面と併せて、オンライン配信も基本的な範囲で対応していく。
- 大会には新たに査読セッションを導入する。これは、アーリーキャリア研究者の査

読付き研究発表のために設置した。

[質疑応答]

- 質問なし

3. 三田図書館・情報学会研究助成

宮田(事務局)が、資料11に基づき、三田図書館・情報学会研究助成について説明した。今年度は1件の申請があり、審査によって、船水雄斗氏「少年院の矯正教育における読書関連活動の実践と意義」を採択した。

[質疑応答]

- 質問なし

4. 会員向け付加サービス

池谷(会長)が、資料12に基づき、会員向け付加サービスについて説明した。新たな会員サービスとして計画している。「児童サービス論」を教えるための研修を予定している。8名程度を想定し、資料費を徴収する予定。

[質疑応答]

- 根本: 今回の単発の企画なのか。今後の全体像やコンセプトを知りたい。
- 池谷: とりあえず会員向けサービスを増やすという観点から着手してみるということで検討している。特に「児童サービス論」の担い手の後進育成が喫緊の課題でもあることからこのテーマとした。
- 根本: ライセンスや受講証などを検討してもよいのでは。説明の方法を考えてほしい。
- 池谷: 一度実施してみて考えてみたい。修了バッジなどの検討まではできていない。
- 根本: 本来なら大学院等での教育がふさわしいか。他の研修会と別に+αのものとなるか。
- 池谷: 想定としては、司書課程ですでに教えている教員など。
- 根本: 受講者の候補は？
- 池谷: 想定されている。ただし、日程の設定が難しい。
- 根本: 学会の事業としては唐突な感じがある。
- 萩原: 担当者が少ないので担当に知識をつける、という宣伝方法はよくないかも。科目担当を依頼している建前からすると学会としてはまずいのでは。他の表現でもよいのではないか。「児童サービス論研修プログラム」という言い方ではよいのではないか。
- 池谷: 募集する際には背景は出さない方針。対象は、現在教えているか、今後教えたいと思っている方。志望動機も重要とする。
- 萩原: JLAの教育部会とのバッティングが懸念される。やってみることに賛成だが、学会としての位置付けが難しい。しかし、否定するものではない。
- 池谷: 児童サービスの経験や知見がなく、児童サービス論を担当している現状があることが前提ではあるが、公には出さない方向。図書館員養成ではないことをもっと明確にする。
- 根本: 難しい分野で、疑問をもたれない表現等が重要。
- 池谷: 検討してあまりに困難だったら再検討したい。

以上、本年度の事業計画が承認された。

【2026年度予算案】

松本(事務局)から資料13に基づき予算案について説明があり、安形(編集委員会委員長)から補足があった。

[質疑応答]

- 谷口: 収入を見ると約三百万円、支出は約二百数十万程度である。これでしばらく安定すれば、繰越金が増える一方となる。投稿を増やす活動などで中長期的に予算を支出するよう検討してほしい。
- 池谷: そうしたご指摘の点を踏まえて、今回の付加的サービスを発想した。他にも考えていきたい。
- 安形: 査読論文の書き方ワークショップなども検討したことがある。改めて考えてい。

以上、本年度の予算が承認された。

【委員の交代】

松本(事務局)が、資料14に基づき、委員の退任及び交代(編集委員、プログラム委員、事務局、運営委員)について報告し、承認された。

【学会会員の異動】

松本(事務局)が、資料15に基づき学会費長期滞納者3名の除名、個人会員と機関会員の学会費支払状況について説明した。除名処分について承認された。

【その他】

- 荻原: 機関会員の減少についての手当はないか。月例会のアーカイブ視聴や見学会などの支援があれば、学会を支える応援団として捉えたい。
- 池谷: ありがたい。引き続きアイデアをいただきたい。

(記録担当: 福島)